

寺内町会館 木村さん 戲瓢踊で講演

国の文化財指定願う



戲瓢踊の歴史等を話す木村さん

御坊市中町の御坊寺内町会館で14日、特別講演「戲瓢踊(けほんおどり)」と寺内町が開かれ、戲瓢踊保存会事務局の木村洪平さんが歴史などを分かりやすく話した。

地域住民ら約20人が参加。戲瓢踊は御坊祭で奉納されており、県無形文化財指定第1号の歴史の古い芸能。木村さんは、茶わんやひょうたんをたたきながら念仏を唱える「鉢叩き」にルーツがあることや、鉢叩きがひょうたんをたたきながら「きよひょうん」に由来することを説明。戲瓢踊を奉納する前には1784年に紀伊九代藩主徳川治貞

受けて守られてきた」と盛させるような時代ではないか」と話と強調。「いまも戲瓢は厳しい状況にある文化財に指定してもながら聞き入っているが、四恩を見直して隆らえば再び盛り上がるた。

より下賜された「四恩状」を奉読しており、踊り歌の中にも四恩(天地の恩、父母の恩、国土の恩、衆生の恩)があるとし、「戲瓢踊は江戸末期以降何度か衰退することがあったが、四恩の思想を大事にしていること